



総題 「ローマの信徒への手紙」における贖い

SDA聴覚しょうがい者友の会教材部

第 2 課 ユダヤ人と異邦人 村沢秀和 2010, 7, 3~2010, 7, 9

はじめに

以前、ある他宗派のクリスチャンから「セブンスデーは旧約聖書しか読まないんでしょう？」と言われたことがあります。また別の方からは「セブンスデーはユダヤ教と同じなんでしょう？」と言われたこともあります。わたしはとてもしびっくりしてしまいました。どうしてこのような誤解が生まれるのでしょうか。それはわたしたちが他宗派に比べて旧約聖書の十戒を大切にしているからかもしれません。しかし、旧約の十戒を大切にすることが、新約の教えを大切にしないということではありません。旧約も新約も同じ神様の教えであり、そこには矛盾はないのです。

1. さらにまさった約束 7月4日（日曜日）

「しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです」ヘブライ 8:6

旧約時代には、人間の罪の身代わりとして、たくさんの動物がささげられました。ささげられた動物は、イエス様を象徴していました。だから、新約時代になりそのイエス様が地上に来られ、十字架にかかって死んでくださったとき、もう身代わりの動物は必要なくなりました。このように、旧約聖書と新約聖書では違うところがあります。しかし、それは旧約聖書の十戒の教えを、もう守らなくてもよくなったということではありません。むしろ、その教えの本質がよりよくわかるようになったということです。神の掟は永遠です。

「イエスは言われた。『なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、掟を守りなさい』」マタイ 19:17

小さな無医村の村がありました。隣町の病院に行くためには山を越えて、大変時間がかかるために、昔から病気にならないようにと村人たちは健康的な生活を心がけていました。そのため、病気にかかる人も少なく村は平和でした。ところが、あるときその村にお医者さんがやってきたのです。村人は大喜びでした。やがて、お医者さんが来てくれたのだからこれでもう安心と、だんだんと健康的な生活から離れ、ついにはすっかり忘れてしまいました。すると、急に病人が増え始めたのです。お医者さんの治療を受けられるのは良いのですが、昔のような健康な村ではなくなってしまったのです。

わたしたちが、イエス様がすべての罪を赦してくださるのだから、古い掟はもう必要ないと言ったとき、それはまるで健康的な生き方を忘れてしまったこの村人たちのようです。古い掟もイエス様の救いも一つの同じ線の上にあり、つながっているのです。

2. ユダヤ人の律法と規定 7月5日（月曜日）

レビ記には様々な律法の教えが書かれています。それらは道徳律、礼典律、健康に関する規定、民法などに分けることができます。この中で礼典率と呼ばれる聖所の儀式などは、十字架とともに廃止されました。しかし、道徳律と呼ばれる十戒は、今もなお永遠の神の教えです。なぜ

ならば、それは愛だからです。健康に関する規定なども、現代の医学に通じるものがあると言われています。だから、セブンスデーの教会は旧約聖書の健康の教えも大切にします。ただ、それは天国に救われるためという意味ではないので誤解のないようにしたいと思います。

3. 「救われるためにはどうすべきでしょうか」 7月6日（火曜日）

ユダヤ人ではない異邦人（外国人）クリスチャンがどんどんと増える中で、教会ではあることが大きな議論となっていました。それはユダヤ人が守ってきた決まりごとを異邦人にも守らせるべきだということでした。特に割礼がその象徴となっていたようです。そこで、パウロやバルナバたちはエルサレムに上京し、話し合うことになりました。そこでたくさんのお話し合いがなされました。おそらく聖書の解釈をめぐる議論がなされたのでしょう。しかし、最後に語ったペテロの言葉が、話し合いに終止符を打つこととなります。簡単に言いますと、割礼を受けていない異邦人クリスチャンたちの上にも聖霊が下り、神が彼らを受け入れられた、そしてユダヤ人クリスチャンとの間に何の差別をもなさなかったということでした。

現代教会でも、たとえば若い人たちの教会での服装や讃美歌などが批判されることがあるかもしれません。でも、彼らが心から救われたことを喜んでいる姿を見ると、「あ～神様に愛されているんだな～。これで良いんだな～」と思います。大切なことは、神様を愛し、喜んで信仰していることではないでしょうか。

さて、ペテロの話聞いていくうちに、全会衆は静かになり、神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業についてじっと聞いていました（使徒15:12）。彼らは自分たちの古い考えを心の中で静かに整理していたのかもしれませんが。ペテロは「なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです」（使徒15:10、11）と、結論づけます。

救いはわたしたちの行いではなく、神の恵みである。これこそ、もっとも大切な教えなのです。

4. 「一切あなたがたに重荷を負わせない」 7月6日（水曜日）

エルサレム会議において、異邦人クリスチャンたちに古いユダヤの伝統を負わせないことが決められます。ただ、「偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるように」と、手紙を書くべきだと提案がなされます（使徒15:20）。これらはやはり、ユダヤ人の感情的な問題を刺激することになるので、それに対する配慮でした。つまり、律法うんぬんというより、相手の気持ちを大切にすることを優先させる決定で、教会にはこのようなことも大切なのです。

5. ガラテヤ人の異端 7月8日（木曜日）

エルサレム会議において、異邦人に対する結論がはっきりと示されたにも関わらず、なおもユダヤ人の伝統と律法を守るべきだと主張する人たちがいました。彼らはやがて福音そのものまで拒むようになっていきます。これは本当に大変な問題でした。パウロは、「キリストの恵みへ招いてくださった方から、あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、わたしはあきれ果てています」（ガラテヤ1:6）と言っています。わたしたちも福音からそれることのないように注意したいと思います。